

2019年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年5月14日

上場会社名 一正蒲鉾株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2904 URL <http://www.ichimasa.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野崎 正博  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 高島 正樹 (TEL) 025-270-7111  
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第3四半期の連結業績(2018年7月1日~2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第3四半期	28,605	0.2	1,474	21.2	1,480	17.0	893	36.0
2018年6月期第3四半期	28,539	1.0	1,216	△24.4	1,264	△27.7	656	△39.3

(注) 包括利益 2019年6月期第3四半期 609百万円(△12.8%) 2018年6月期第3四半期 699百万円(△29.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年6月期第3四半期	48.39	—
2018年6月期第3四半期	35.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年6月期第3四半期	23,439	11,347	48.4
2018年6月期	24,280	10,911	44.9

(参考) 自己資本 2019年6月期第3四半期 11,347百万円 2018年6月期 10,911百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	—	—	7.00	7.00
2019年6月期	—	—	—	—	—
2019年6月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年6月期の連結業績予想(2018年7月1日~2019年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,500	4.2	1,200	17.8	1,200	14.1	600	7.6	32.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年6月期3Q	18,590,000株	2018年6月期	18,590,000株
② 期末自己株式数	2019年6月期3Q	164,768株	2018年6月期	110,868株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年6月期3Q	18,456,962株	2018年6月期3Q	18,488,712株

（注）期末自己株式数には、「資産管理サービス信託銀行（株）（信託E口）」が保有する当社株式（2019年6月期3Q99,700株、2018年6月期45,800株）が含まれております。また、「資産管理サービス信託銀行（株）（信託E口）」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2019年6月期3Q67,970株、2018年6月期3Q36,280株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年7月1日～2019年3月31日)におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善により全体として緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、米中の貿易摩擦や解決が先送りされ長期化する英国のEU離脱問題など不安定な国際情勢により世界経済の先行きは不透明な状況で推移しております。

当社グループでは、原材料や人件費の増加など依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、“ICHIMASA30ビジョン”(30年後の目指す姿)を目指し、2016年7月から2021年6月までの5ヶ年の中期経営計画を策定し、「成長基盤創り」と「お客様が中心」を基本方針とし経営課題に取り組んでおります。

また、地球環境の維持は企業活動の持続的な発展・成長のためには不可欠であり、2015年9月に国連総会で採択された17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」に基づき、当社グループもステークホルダーの皆さまと協力しながら社会のサステナブルな課題の解決に取り組んでおります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高286億5百万円(前年同四半期比65百万円(0.2%)の増加)、営業利益は14億74百万円(前年同四半期比2億58百万円(21.2%)の増加)、経常利益は14億80百万円(前年同四半期比2億15百万円(17.0%)の増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億93百万円(前年同四半期比2億36百万円(36.0%)の増加)となりました。

セグメントの状況は、次のとおりであります。

#### ① 水産練製品・惣菜事業

当セグメントにおきましては、主力商品群の「カニかま」は健康長寿の食材として高タンパクの栄養素や血糖値上昇を抑制する健康効果がテレビ番組に取り上げられたこと、「サラダスティック」の姉妹品「サラダスティック瀬戸内レモン風味」の爽やかな風味が夏場に支持されたことにより好調に推移いたしました。また、うなぎの稚魚の不漁などを背景に価格の高騰が続くうなぎの代替品として「うなる美味しさうな次郎」の認知が進み販売が伸長いたしました。新商品では、スポーツが好きな人のためのたんぱく質補給商品として「スポちく」を発売いたしました。一方で例年よりも寒気の影響が弱く、気温が高めに推移したことにより鍋物需要は鈍く、おでん商材である「ちくわ」「揚物」などの定番商品は軟調に推移いたしました。

利益面におきましては、省人化を中心としてコストダウンを推進しておりますが、世界的な水産物需要の高まりによるすり身価格の高騰、賃率上昇に伴う人件費やエネルギーコストの増加などにより前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は241億83百万円(前年同四半期比4億32百万円(1.8%)の減少)、セグメント利益(営業利益)は5億28百万円(前年同四半期はセグメント利益(営業利益)6億66百万円)となりました。

#### ② きのこ事業

当セグメントにおきましては、夏場の豪雨や大幅な気温上昇などの天候不順により野菜市場価格は高騰いたしました。秋以降は一転して暖かな好天が続く野菜の生育は順調であったものの、暖冬により鍋物用野菜の需要は鈍く、野菜市場価格は軟調に推移し、きのこ関連の価格も軟調なまま推移いたしました。

しかしながら、まいたけ価格は、引き続きテレビ番組に機能性効果を取り上げられたことにより堅調に推移いたしました。

生産面におきましては、安定栽培に努め、効率的な生産を目指し取り組んでまいりました。販売面におきましては、まいたけの需要喚起を目指しメニュー提案などの販売促進を強化したことにより、売上高、利益ともに前年同四半期を上回る結果となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は40億52百万円(前年同四半期比5億6百万円(14.3%)の増加)、セグメント利益(営業利益)は8億33百万円(前年同四半期はセグメント利益(営業利益)4億34百万円)となりました。

③ その他

(運送事業・倉庫事業)

運送事業におきましては、既存のお客様との取引拡大により、売上高は前年同四半期を上回ったものの、燃料価格の上昇等もあり、利益は前年同四半期を下回る結果となりました。

倉庫事業におきましては、新規在庫量が前年実績を下回ったことに伴い、保管在庫量も低調に推移した結果、売上高・利益ともに前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、報告セグメントに含まれないその他の売上高は3億69百万円（前年同四半期比8百万円（2.3%）の減少）、セグメント利益（営業利益）は1億2百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）1億7百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は71億76百万円（前連結会計年度末比1億48百万円の減少）となりました。

これは主に季節的要因による売掛金の増加、商品及び製品並びに現金及び預金の減少によるものであります。

② 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は162億62百万円（前連結会計年度末比6億92百万円の減少）となりました。

これは主に株式の時価下落に伴う投資有価証券の減少及び有形固定資産の減価償却の進行によるものであります。

③ 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は75億85百万円（前連結会計年度末比12億11百万円の減少）となりました。これは主に短期借入金及び並びに支払手形及び買掛金の減少によるものであります。

④ 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は45億6百万円（前連結会計年度末比64百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の増加及び社債の減少によるものであります。

⑤ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により113億47百万円（前連結会計年度末比4億35百万円の増加）となり、自己資本比率は前連結会計年度末の44.9%から48.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月期の第3四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、2018年8月7日に公表した業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,222,240	938,367
売掛金	3,123,762	3,764,243
商品及び製品	875,245	556,144
仕掛品	640,200	383,234
原材料及び貯蔵品	1,377,339	1,371,260
その他	87,326	164,379
貸倒引当金	△660	△640
流動資産合計	7,325,454	7,176,989
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,231,701	5,921,792
機械装置及び運搬具(純額)	2,931,964	2,902,648
工具、器具及び備品(純額)	153,717	150,504
土地	3,267,083	3,267,083
リース資産(純額)	276,880	253,253
建設仮勘定	41,328	31,357
有形固定資産合計	12,902,674	12,526,639
無形固定資産	359,463	396,584
投資その他の資産		
投資有価証券	2,978,113	2,641,986
その他	739,189	721,934
貸倒引当金	△24,500	△24,500
投資その他の資産合計	3,692,802	3,339,420
固定資産合計	16,954,941	16,262,644
資産合計	24,280,395	23,439,634
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,860,429	1,429,215
短期借入金	3,954,002	2,968,922
未払法人税等	200,911	454,076
賞与引当金	63,873	253,962
未払金及び未払費用	1,650,376	1,730,484
その他	1,067,672	749,288
流動負債合計	8,797,265	7,585,949
固定負債		
社債	570,000	160,000
長期借入金	2,935,421	3,484,772
役員退職慰労引当金	27,401	27,995
役員株式給付引当金	46,586	57,317
繰延税金負債	540,417	358,733
その他	451,524	417,576
固定負債合計	4,571,350	4,506,395
負債合計	13,368,616	12,092,344

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	940,000	940,000
資本剰余金	650,000	650,000
利益剰余金	7,738,560	8,514,727
自己株式	△69,008	△126,375
株主資本合計	9,259,552	9,978,351
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,435,279	1,182,198
為替換算調整勘定	216,947	186,739
その他の包括利益累計額合計	1,652,226	1,368,938
純資産合計	10,911,779	11,347,289
負債純資産合計	24,280,395	23,439,634

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)
売上高	28,539,574	28,605,164
売上原価	21,163,642	20,976,841
売上総利益	7,375,931	7,628,322
販売費及び一般管理費	6,159,541	6,153,757
営業利益	1,216,390	1,474,565
営業外収益		
受取利息	1,415	825
受取配当金	13,287	15,038
受取賃貸料	13,888	14,523
受取手数料	27,943	18,106
売電収入	11,771	11,345
為替差益	59,088	—
雑収入	21,866	34,119
営業外収益合計	149,262	93,958
営業外費用		
支払利息	42,821	33,433
為替差損	—	20,423
持分法による投資損失	42,204	25,293
雑損失	15,843	9,192
営業外費用合計	100,869	88,342
経常利益	1,264,783	1,480,181
特別利益		
固定資産売却益	1,849	—
投資有価証券売却益	—	6,890
補助金収入	10,155	—
特別利益合計	12,005	6,890
特別損失		
固定資産除却損	598	3,688
火災損失	108,362	—
特別損失合計	108,961	3,688
税金等調整前四半期純利益	1,167,827	1,483,384
法人税、住民税及び事業税	564,416	695,849
法人税等調整額	△53,199	△105,554
法人税等合計	511,217	590,294
四半期純利益	656,610	893,089
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	656,610	893,089



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)
四半期純利益	656,610	893,089
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△33,685	△253,080
為替換算調整勘定	81,093	△30,545
持分法適用会社に対する持分相当額	△4,662	337
その他の包括利益合計	42,745	△283,288
四半期包括利益	699,355	609,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	699,355	609,800
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	24,615,490	3,545,611	28,161,102	378,472	28,539,574	—	28,539,574
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	2,018,873	2,018,873	△2,018,873	—
計	24,615,490	3,545,611	28,161,102	2,397,345	30,558,448	△2,018,873	28,539,574
セグメント利益	666,202	434,972	1,101,174	107,326	1,208,500	7,889	1,216,390

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントであります。  
 2 セグメント利益の調整額7,889千円は、主にセグメント間取引消去であります。  
 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	24,183,238	4,052,218	28,235,456	369,707	28,605,164	—	28,605,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	2,031,862	2,031,862	△2,031,862	—
計	24,183,238	4,052,218	28,235,456	2,401,569	30,637,026	△2,031,862	28,605,164
セグメント利益	528,591	833,347	1,361,938	102,705	1,464,644	9,920	1,474,565

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントであります。  
 2 セグメント利益の調整額9,920千円は、主にセグメント間取引消去であります。  
 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。